

科学のまちの子どもたち ロボットフェスティバル



京都山城ロータリークラブ主催の「科学のまちの子どもたちロボットフェスティバル」が先月22日、精華町けいはんなプラザ大会議室で開催されました。このイベントは「けいはんなジュニアロボットクラブ」に所属する20人の小学生が学習の成果を発表し、学研都市などで活躍する研究者や技術者との交流を目的として行われているもの。近隣住民を含め、子どもから大人まで370人も参加者が集い、ロボット科学の最前線を体験しました。



▲黒い線を認識し、走行するロボット



▲このプログラムは…

会場では子どもたちが製作したロボットのデモンストレーションなどが行われ「アシストブレーキ付きの車型ロボット」や「ボールの位置を赤外線で検知して指示通りの場まで運ぶロボット」など、力作の数々を披露。その後、技術者らによる最新型ロボットの実演や講演が行われ、参加者たちは最先端の技術に驚き、感嘆の声を漏らしていました。



▲川本稜生君
(ジュニアロボットクラブ・山田荘小6年)



▲筋肉を動かすと発生する電力で、ロボット手を動かす

「ロボットは面白い～ジュニロボで勉強したこと～」をテーマにプレゼンテーションを行った川本稜生君(山田荘小6年)は、同クラブでの経験を振り返り「プログラミングでロボットを動かすとモーター駆動による誤差が出ます。センサーを使ってそれを克服することが難しくもあり、おもしろかったです」とコメント。また「将来はJAXAに入って、宇宙で動けるロボットを作りたいです」と力強く話しました。



▲キニートを見た目で、性能は抜群！



▲上手に缶を掴めるかな？



▲障害物までの距離を検知して停止するアシストブレーキに興味津々



▲重いものを持ち上げるのもへっちゃら！
「パワーアシスタントスーツ」

